



主な話題

- p 02 固定資産税に係る未評価家屋等の調査 増築や物置等の調査にご協力ください
- p 03 奨学金を返還している若者を支援します 令和7年度 東海村奨学金返還支援事業の受け付けを開始します

「令和7年大船渡市大規模林野火災」 緊急消防援助隊が出勤し、消火活動に尽力

2月26日に岩手県大船渡市で発生した大規模な林野火災の消火活動に当たるため、2月27日から3月10日までの12日間、ひたちなか・東海広域事務組合消防本部所属の消防隊員11隊45人が「緊急消防援助隊」として現地に派遣されました。

3月19日には、派遣された隊員の皆さんが山田村長を訪問し、焼失面積が約3,370ヘクタールにも上り、平成以降で国内最大規模の山林火災となった現場での過酷な消火活動を報告。隊員たちは、「家屋

への延焼を食い止めることを第一優先に消火活動に当たりました」と振り返るとともに、「今後も訓練を重ね、住民の安心・安全を守っていきます」と決意を新たにしました。

また、緊急消防援助隊・第3次派遣の隊長として消火活動に従事した山縣一弘さん(須和間)に、当時の様子や想いをインタビューしました。

【記事に関する問い合わせ】地域戦略課広報・シティプロモーション担当(☎282-1711 内線1339)



地表火を消火する様子



火災により焼失してしまった家屋



地中の火種を消火する様子



【写真左から】黒澤昌希係長、鴨志田典久係長、菊本恭平消防司令補、山縣一弘係長

Interview

日々の心掛けと 備えが大切



田彦消防署 山縣 一弘 係長

今回の林野火災は、乾燥した空気と強い風の影響で一気に広がりました。現場は、風向きによっては炎に囲まれてしまうような状況で、安全だと思っていた場所が一瞬で危険な場所に変わりかねない緊迫感に包まれていました。そんな中、3月5日に火災発生以降初めてまとまった雨が降りました。自然の力は偉大で、雨のおかげで延焼が食い止められたと思います。

とはいえ、火種が残っていると再び延焼する可能性があるため、第3次派遣の隊員は、熱画像直視装置で熱源を探しては地面を掘り起こし、放水する

消火活動を行いました。多くの人手と時間が必要な作業のため、気温が低い中でも汗びしょりになりながら活動したことを覚えています。

緊急消防援助隊としての活動を通して、火災の恐ろしさを改めて感じました。しかし、火災のほとんどは、一人ひとりが注意することで防ぐことができるため、日々の心掛けや備えが大切です。災害はいつどこで起きるか予測ができないものだからこそ、「私は大丈夫」と過信することなく、災害時の避難行動や食料・水の備蓄を見直してみてください。

火災予防の
ポイント



自宅に
消火器を
備えておく



野焼き
をしない



使わない
コンセント
は抜いておく



▲火災予防の
詳細はこちら